写真提供／学校法人明治学院

歴史的ツーバイフォー建築物を訪ねて
―明治～昭和初期―

第9回　インブリー館

アメリカの新構法の影響を受けた旧宣教師館

内田青蔵（神奈川大学建築学部特任教授）

近代化を支えたヘボン

鎖国が解かれ、外国との交流が始まると、当然ながら多くの外国人が日本に訪れた。なかには、その後の日本の近代化に大きな影響をもたらした人々もいた。そうしたなかのひとりにジェームス・カーティス・ヘボンがいる。彼の業績は、ヘボン式ローマ字といえばおわかりいただけるだろう。

1859（安政6）年来日したヘボンは、1867（慶応3）年に日本で最初の和英辞典『和英語林集成』をローマ字・カタカナ・漢字で記して発刊したが、1886（明治19）年に発行した第3版では、ヘボン式ローマ字を完成させ、それを用いたという。

また、ヘボンは「ヘボン塾」を開き、英語の教育に努めた。この「ヘボン塾」を起源とする教育機関が1887（明治20）年開校とされる東京・白金の明治学院だ。その開校の際、ヘボンは和英辞典の版権を売却し、キャンパスの一郭に学生用の寄宿舎「ヘボン館」を建てたという。そして、キャンパスには、校舎とともに4棟の教師を兼ねる宣教師たちの住まいも建設された。教室内だけの教育だけではなく、生活を共にした日常生活のなかでの教育を重視していたからである。

アメリカン・スタイルの現存する旧宣教師館

現在、明治学院大学の白金キャンパスに行くと、大学の歴史を語る歴史的建造物群を一ヵ所にまとめたエリアがある。当初からそこに建築群があったわけではなく、ヴォーリズの設計で知られる1916（大正5）年竣工のチャペルを核に、1889（明治22）年頃竣工といわれる明治学院旧宣教師館「インブリー館」と1890（明治23）年竣工のかつての明治学院旧神学部校舎兼図書館（記念館）を曳家してできたゾーンであり、歴史的建造物をまさに「歴史を語る生き証人」として保存し保護しているのである。

どの建物も魅力的だが、とりわけ、今回紹介するインブリー館は、東京で最古の旧宣教師館であり、貴重である。木造2階建てのその姿は、まさしくアメリカ住宅らしさに満ちあふれ、明治という時代を感じさせる。

まず、外壁は建物全体で基本、下見板張りとし、切妻屋根の妻面は、のこぎりの歯のようなギザギザ状のシングル張り、胴蛇腹の下の小壁部分は魚のうろこ状のシングル張り、また、妻面に設けられた窓の上部や開口部上部の小壁には日輪模様、というように装飾の豊かな外観といえる。うろこ状のシングル張りは創建時に近い頃に改修されたものと考えられているが、こうしたデザインは、19世紀にアメリカで普及していたパターンブックなどに見られるクイーン・アン様式に通じるものであるという。

❶インブリー館外観。❷ポーチから直接入ることができる1階の部屋。❸玄関ホールと階段。❹南西2階ベランダ内部。当初は窓のない半屋外の空間であった。❺南西2階ベランダの外観。窓の上の小壁にも日輪模様の装飾がある。❻西妻面細部。妻面のギザギザ模様。屋根を支える持ち送りも独特のデザインが見られる。❼北妻面細部。窓上の小壁にも日輪模様の装飾がある。

DETAIL

❽壁内に設けられていた筋違。❾斜めに張られた下見捨板。（『明治学院旧宣教師館（インブリー館）建物調査報告書 補遺 木構造技術調査報告』より転写）

竣工年／1889（明治22）年頃
所在地／東京都
設計者／不明

旧宣教師館の構造形式の特徴

この旧宣教師館は、日本人大工の手によるもので、デザインはパターンブックをもとにアメリカの様式を取り入れたと考えられている。では、その構造の姿はどのようなものであったのかが気になる。

その答えが、1995年から行われていた保存修理工事の際の調査をまとめた『明治学院旧宣教師館（インブリー館）建物調査報告書 補遺 木構造技術調査報告』に記されている。それによると、基本構造は、伝統的な柱梁構造であるものの、デザイン同様にアメリカの新構法であるバルーン・フレーム構造（ツーバイフォー工法の原型）が混用されているという。バルーン・フレーム構造の影響と考えられる点をいくつか挙げると、①壁面の「let-in-brace」と呼ばれる平筋違の使用、②壁面の斜め張りの下見捨板の使用、③伝統的なほぞ差しではなく、すべて洋釘で固定された間柱、④胴差の上にくぎ打ちで固定された根太、などである。①②は日本伝統的技法にはなかった新しい技法であり、③④接合部のほぞやほぞ穴などの複雑な仕口の代わりに洋釘で留めるという当時としては軽便な処理の導入といえる。

アメリカでもバルーン・フレーム構造が開発された当時、伝統的な柱梁構造との混在の時代があったという。この旧宣教師館は、日本における新構法の導入時の混在化の様相を示す貴重な事例ともいえるのである。

［参考文献］
『明治学院旧宣教師館（インブリー館）建物調査報告書』（学校法人明治学院　1995年）
『明治学院旧宣教師館（インブリー館）建物調査報告書 補遺 木構造技術調査報告』（学校法人明治学院　1996年）
内田青蔵「宣教師の住まい」『週刊新潮』2017年10月26日
内田青蔵『学び舎拝見』河出書房新社　2007年

本施設は外観のみ見学が可能です（内部は通常非公開）。詳細は学校法人明治学院のWebサイトでご確認ください。
「歴史的建造物のご見学について」https://meijigakuin.jp/about/landmark/visit/